

有限会社くさなぎ農園（帯広市）

☆基礎情報【経営形態：養鶏業、養豚業】【従業員数：14名（うち障がい者8名）】

☆調査時期【平成28年3月】

1 障がい者就農に取り組んだ経緯

就農前の実習先で障がい者が働いている姿を見た影響から、障がい者雇用を支援したいと強く思い、平成12（2000）年以降、徐々に障がい者雇用を開始。現在では、就労移行支援サービスなどを利用することで安定的に雇用できる体制を確立した。

2 取組内容

- ① 雇用形態：雇用契約と作業に応じた賃金支払。
- ② 雇用期間：通年雇用を実現（養鶏、養豚の飼育管理）。
- ③ 労働時間：1日7時間（労働の合間に2時間の休憩（4回程度））。
- ④ 作業内容：

養鶏・養豚の飼育作業で中心となる給水や給餌を行うとともに、鶏舎や豚舎の清掃作業も担当している。平成17（2005）年からは、地域の規格外品などの資源（長いも、かぼちゃ）を活用するため、飼料製造工場を立ち上げ、飼料づくりを行っている。農繁期においては、地域の方との交流や除草・収穫作業を通じて、普段と異なる雰囲気の中で、農作業に励んでいる。



▲豚への給水作業の様子

3 取組のポイント

障がい者は、生き物との触れ合いを通じて、家畜の飼育に対する責任感が生まれたり、生活リズムが改善されたりした。

職業指導員2名、就労支援員1名、生活支援員2名、サービス管理責任者1名で構成されたスタッフ総勢6名が様々な観点から障がい者をサポートしている。

4 今後の課題や将来展望

- ① 将来展望：就労継続支援事業所、グループホーム等があるメリットを活かし、単に障がい者の自立だけではなく、継続した就労を支援することが必要であると考えている。このため、農業が本職であるとの基本を忘れず、営農で生じた利益の一部を福祉に活かせるよう心がけ、障がい者就農に取り組んでいきたい。
- ② 今後の課題：高齢化などで衰えていく方の雇用を支援するため、海外の羊毛を使用したフェルトづくりに加えて、国産や近所の羊毛を使用した織物づくりなども行い、多様性を持たせることが課題である。

<この事例の問い合わせ先>

有限会社くさなぎ農園

電話番号：0155-60-2012